

令和2年度日本農林漁業振興会会長賞受賞者受賞理由概要
多角化経営部門

と畜・加工・販売を一貫して行い、畜産の生産基盤を維持・強化

○氏名又は名称 株式会社ミヤチク（代表 有馬 慎吾）

○所在地 宮崎県都城市

○出品財 経営（牛肉輸出）

○受賞理由

・地域の概要

都城市は、宮崎県の南西端に位置する。同県は、温暖多照な気候で、平地から山間地に至る変化に富む地形と標高差により農地面積が少なく、水田と畑が半々であり、昭和30年代から集約型ハウス園芸や施設型畜産の展開が進み、今日では肉用牛繁殖を中心とした複合経営が盛ん。平成30年の県農業産出額は3,429億円で全国第5位、畜産はその約2/3を占める主要部門である。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

（株）ミヤチクの前身は、昭和46年に宮崎県都農町に（株）宮崎県畜産公社として発足。昭和56年に宮崎県高崎町（現：都城市）で（株）宮崎くみあい食肉と合併統合し、牛と豚のと畜・解体処理から加工・販売を一貫して行う産地食肉センターである。加えて、外食店の運営やJAグループの一員として養豚生産にも携わる。

・受賞者の特色

（1）対EU、対米輸出のため、海外の食品衛生基準を満たす食肉処理施設の導入

平成2年8月に高崎工場が対米輸出認定を受けてアメリカへの牛肉輸出を開始。令和元年8月には、宮崎牛の新たなマーケットとしてEUを想定した高い衛生基準と動物福祉に対応した新都農工場が竣工し、EUへの輸出も開始。日本からアメリカへ輸出される牛肉のうち約35%がミヤチク工場経由となっている。

（2）人材育成の機会の確保と低い離職率

（株）ミヤチク社内に教育委員会を設置し、新入社員に対する研修や階層別研修・部門別プログラムを実施している。特に、製造部門においては、（公社）全国食肉学校の認定資格である部分肉マイスターの資格を取得している担当者が、製造現場の内外で適宜技術指導を行っており、新工場に適応した高い水準での肉牛・肉豚の解体処理技術の継承が図られている。このような人材育成の機会が確保されることで離職率は低い水準となっている。

・普及性と今後の発展方向

地元経済発展のため、県内で生産された畜産物の需要を国内外問わず確保し続けることが命題となる。そのため、生産者の負託を受け、と畜・加工・販売を一貫して行うことで、良質の畜産物が今後も持続的に生産されることの一助となり得る営業活動を行うことが重要。そうすることにより、県内生産者は専ら生産に取り組むことが可能となり、生産物が国内外で高い評価を受けることは、生産意欲の向上にも繋がることから、生産基盤の維持・強化に大きく寄与することが期待されている。